



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2010年4月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

「橘太鼓『響座』ジュニア」が史上初、2度目の優勝!!

～第12回日本太鼓ジュニアコンクール～



(選手宣誓・「利府太鼓」三浦一真さん)

3月21日(日)、(財)日本太鼓連盟主催、埼玉県支部主管により第12回日本太鼓ジュニアコンクールを埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティ大ホールにおいて開催いたしました。前回の大会より下付された内閣総理大臣賞と、総務大臣賞、文部科学大臣賞を目指して全国35都道府県(予選実施30支部341チーム3,790名、支部推薦等6チーム)から選抜された開催以来最多となる47チーム532名(最年少7才)が出場しました。

開会式は、優勝旗を持った前年度優勝チーム「太鼓研修センター『響』」(宮崎)とブラジルの「パラナバイ寿太鼓」を中央に、全チームが整列して行われました。

国歌斉唱に続き、(財)日本太鼓連盟松本会長、埼玉県知事代理の後閑博県民生活部長、高野埼玉県支部長が挨拶。そして、「太鼓研修センター『響』」より優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと長胴太鼓一鼓(1尺6寸)が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった宮城県代表の「利府太鼓」の三浦一真さんが、力強い選手宣誓を行い、次いで長谷川副会長による初っ切り太鼓が演奏されコンクールが幕を開けました。出場47チームは、大会要領に基づき故小口大八先生作曲による課題曲「祭り」と自由曲を5分以内で演奏しました。2,500席の会場は満席となり、各団体の演奏が終わる度に、各チームの頑張りに対して心からの拍手と声援が送られました。

47チームの演奏の後、第6回全ブラジル太鼓選手権大会での優勝チーム「パラナバイ寿太鼓」と前回優勝した「太鼓研修センター『響』」(宮崎)が演奏を披露し、全ての演奏が終了しました。閉会式では、渡辺審査委員、塩見審査委員長より講評の後、

審査結果が発表され、「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)が栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。

優勝チームが発表された瞬間、張り詰めた空気から一転、会場から歓声が沸き起こりました。「橘太鼓『響座』ジュニア」は、11歳から17歳までのメンバー8名で構成されたチームで、2年前に初優勝した後、練習を毎日積み重ね、見事に史上初となる2度目の優勝に輝きました。また、「輪島・和太鼓虎之介」(石川)が準優勝として総務大臣賞を受賞、第3位の「山川ツマベニ少年太鼓」(鹿児島)が文部科学大臣賞を受賞いたしました。

出場全チームがこれまでの練習の成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを確信しております。

最後に、審査委員、技術委員の先生方、特別出演の「太鼓研修センター『響』」、「パラナバイ寿太鼓」の皆さん、応援に来て頂いたご父兄並びにご来場の皆様、そして200名にも及び埼玉県支部スタッフ・ボランティアの皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

なお、今大会には出場団体の地元テレビ局4社が同行し、後日コンクールの模様が放映されました。ジュニアコンクールが注目されてきた表われではないでしょうか。

審査委員

王	妙涓(台湾太鼓協会理事長)
岡田	知之(洗足学園音楽大学名誉教授)
塩見	和子(審査委員長・財団理事長)
西角井	正大(日本大学大学院講師)
長谷川	義(全九州太鼓連合会長)
古屋	邦夫(財団技術委員会委員長)
渡辺	貞夫(音楽家)

(五十音順・敬称略)



(優勝した「橘太鼓『響座』ジュニア」)

受賞一覧

優勝・内閣総理大臣賞

準優勝・総務大臣賞

第3位・文部科学大臣賞

第4位

第5位

特別賞

埼玉県知事賞

埼玉県教育委員会教育長賞

埼玉県議会議長賞

さいたま市長賞

さいたま市教育委員会教育長賞

埼玉県文化団体連合会賞

NHKさいたま放送局賞

株式会社テレビ埼玉賞

埼玉新聞社賞

(株)浅野太鼓楽器店賞

ブラジル太鼓協会賞

(財)日本太鼓連盟特別賞

特別個人賞

橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎)

輪島・和太鼓 虎之介(石川)

山川ツマベニ少年太鼓(鹿児島)

九谷太鼓 若獅子組(石川)

日向の国「響」(宮崎)

乾武神流川太鼓(埼玉)

夕張太鼓保存会「竜花」(北海道)

岩舟武蔵太鼓ジュニア(栃木)

御諏訪太鼓保存会 神童太鼓(長野)

飛龍高等学校 和太鼓部(静岡)

宇品みなと太鼓(広島)

和太鼓 凧(千葉)

源流はさま太鼓(大分)

川越ふじ太鼓(埼玉)

山梨園芸高等学校すいれき太鼓部(山梨)

おおむら太鼓連 くじら太鼓(長崎)

パラナバイ寿太鼓(ブラジル)

後藤那彰 上石津もんでこ太鼓保存会少年部(岐阜)

*「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)から感想文をいただきましたので掲載いたします。

橘太鼓「響座」ジュニア 代表 岩切 邦光

私達、「橘太鼓『響座』ジュニア」は、平成17年に名古屋で開催された「愛・地球博JAPAN WEEK」で、ジュニアコンクールの歴代優勝チームが集まる特別公演の際に、塩見理事長からの「オープニングで大太鼓を」をきっかけに結成したチームです。「愛・地球博」でジュニアチームでもこんなに凄いのかというレベルの高さを知り、深く感動しジュニアを結成し指導を始める事にしました。

初年度結成時、第9回大会に入賞したものの全国の壁の厚さを知り、大会の翌日から毎日の練習が始まりました。雨の日も、風の日も、盆・正月もなく毎日練習した結果、石川県で開催された第10回目の大会で優勝することができました。

その時に、理事長からの「レベルを下げては駄目」というお言葉に奮起し、肝に銘じ、また1年間の毎日の練習をし、草月ホールでのチャリティコンサートや札幌での全国フェスティバルの出演、ジュニアコンクールでの模範演奏と無事に終わることができました。

昨年9月に、これで響座ジュニアは終わりと決めましたが、まだどのチームも成し遂げていない2回目の全国制覇を目指そうという子供達の強い希望により、また毎日練習を始めました。

前回と同じ曲での挑戦は避け、新曲を作るとともに、私の師匠である、ゆふいん源流太鼓の長谷川代表に「打ち込む太鼓を目指せ」というアドバイスを頂き毎朝毎晩の1日2回の練習を行いました。その結果2度目の優勝を果たすことが出来ました。

今後は、初心を忘れず初めて舞台上に立った時の事を胸に、おごらず、また一から始める気持ちで毎日の練習を続けて行きたいと思います。

今大会にあたって日本太鼓連盟埼玉県支部の方々には、太鼓の準備・転換にと大変お世話になり誠に有難う御座いました。

また、ジュニアをつくるきっかけを頂いた塩見理事長、多くの助言を頂きました全国の先生方へ心から感謝申し上げます。

平部 眞子(高校2年)

全国大会に出場して、優勝というとても嬉しい結果を頂きました。

出場した全ての選手が体験する、演奏前の緊張感。結果を待つドキドキ感。そして「まな板の上の鯉」状態だった私達が解放される発表の後の達成感。それらの感覚を味わったあと、合わせた手が思わず大きく上がり、舞台前方に歩いて行く間の拍手の中に雑じる父母達の声。多くの方々に支えられて、チームの仲間と迎えたすばらしい瞬間でした。

2回目の優勝が出来たのは、今年1月に九州大会で準優勝という悔しい結果に成り、それがバネとなり毎朝・毎晩1日2回の苦しい練習を頑張れた結果だと思います。この気持ちを忘れずこれからも頑張りたいと思います。有難う御座いました。

吉田 香名恵(高校2年)

私にとって、ジュニアとして最後の緊張したコンクール。毎日の厳しい練習も、声を掛け合える仲間がいたからこそ頑張ることができ、また、チームが一つになり2度目の優勝という貴重な感動を経験す

ることが出来たのだと思います。

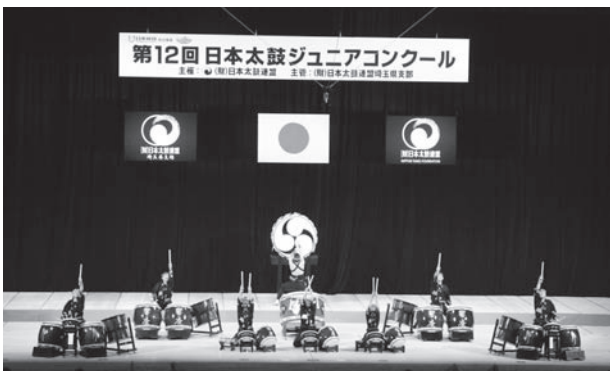
この全国優勝も、指導して下さった先生、いつも私達を応援してくれる家族の支えに感謝します。

これからも、沢山のお客様に喜んでもらえるように頑張っていきますので宜しくお願いします。

岩切 希望(中学3年)

私達「響座」ジュニアは、11月に行われた宮崎県大会で優勝し第12回日本太鼓ジュニアコンクールに出場することが決まりました。

全国大会に向けて私達は毎朝、毎晩の厳しい練習をしてきました。3月21日の大会当日は、朝から緊張し、ドキドキでした。今までの練習の成果を出せるように一生懸命演奏しました。演奏後は自然に涙が流れてきました。結果発表もハラハラドキドキで、最後に自分達の名前が呼ばれる事を祈りました。



(優勝時の演奏)

「優勝は、エントリーナンバー 29番 橘太鼓『響座』ジュニア」名前が呼ばれた瞬間、嬉しくて涙があふれてきました。

私達は、日本一の練習をして日本一の栄冠を獲得することができ、本当に嬉しく思います。

指導員の先生、いつも応援してくれる保護者の皆さんに心から感謝したいと思います。これからも人に感動を与えられるよう一生懸命頑張っていきたいと思っています。

開地 未結(中学3年)

「29番」その瞬間私は涙が止まりませんでした。今までの色々な思いが涙となったと思います。大会前の練習で悔しい思いもしましたが、その時喜びに変わりました。沢山応援してくれる人達がいてここまで頑張れたと思います。これからの1年は新たなスタートとなり、日々自分を磨き、初心を忘れず「勝っておごらず負けてくさらず」の言葉を胸に努力していきたいと思っています。座長をはじめ指導して下さった先生方、支えてくれた家族や友達に感謝します。

第13回大会は、愛知県名古屋市で開催！

第13回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2011年3月20日(日)、愛知県名古屋市の「センチュリーホール」にて開催いたします。

日伯交流 —ブラジル太鼓チーム招請—

第12回ジュニアコンクールには、ブラジルチームが6回目の出場をいたしました。昨年7月に行われた「第6回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(10団体、154名参加)で優勝した「パラナバイ寿太鼓」の13歳から17歳の男女13名と、引率8名の総勢21名が来日しました。

地球の反対側からの可愛い訪問者たちが今大会で演奏した「狩人」は、メンバーが相談しながら作曲したものです。課題曲とともに、日本のジュニアチームに匹敵する見事な演奏を披露しました。メンバーたちは日本のジュニアチームのレベルの高い演奏を目の当たりにして、とても感動し、自分たちも今後ますますがんばっていきたくて意欲を示していました。

大会翌日の特別講習会では、渡辺洋一氏から久しぶりの指導を受けることができ、喜んでいました。

3月23日(火)には群馬県大泉市のブラジル学校「日伯学園」の生徒約170人を前に演奏、24日(水)には静岡県富士市の「エスコラ・フジ」の生徒約100人を前に演奏し、熱狂的な歓迎を受け、大成功で公演を終えたメンバーたちはほっとしていました。

東京では、お台場の「船の科学館」を見学した後、日本財団を表敬訪問し、笹川会長よりねぎらいと励ましのお言葉をいただきました。日本の印象などを聞かれ、緊張しながらも一人一人一生懸命に答えました。

今回も残念ながら日本語を話せるメンバーが少なく、次の来日の時までには日本語をもっと勉強してくると反省していました。折しも桜が咲き始め、「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを活かして、これからはがんばって太鼓を続けていきたい。」と張り切って帰国しました。



(日本財団を表敬訪問した「パラナバイ寿太鼓」)

蓑輪敏泰氏、シニアボランティアの功績により天皇・皇后両陛下にご接見

JICA(国際協力機構)よりシニアボランティアとしてブラジルに派遣された蓑輪敏泰氏(串間くみ太鼓代表・宮崎)が2年間の和太鼓指導と2008年の「ブラジル移民100周年記念式典」での1,000人太鼓の功績により、2007-8年派遣者の中より6名が選ばれ3月15日に天皇・皇后両陛下にご接見されました。陛下からは「1,000人太鼓はすばらしかったようですね、見ましたよ」などのお言葉をいただいたようです。蓑輪氏は、「両陛下の前で緊張してしまいました。でも、ご質問にはしっかりとお答えできたと思います。」と感想を述べられていました。

以下、ご本人からのブラジルでの太鼓指導についての思い出をご寄稿いただきました。

ブラジル太鼓指導の思い出

「千人打ち太鼓、成功の裏には」

<ブラジル・日本移民100周年記念> 蓑輪 敏泰

◇皇太子殿下ご臨席での大ト리는千人太鼓以外にない！！

センテナリオ(100周年記念協会)事務局に、太鼓協会の役員と共に「将来の日系社会を支える若者に大ト리를！！」と2回乗り込みました。

文化の部を担当されたトップが私と同じ宮崎県出身の一世ということも有利に働いて、大トりに決定しました。

◇100周年記念協会からの考えられない要求と対応

①演奏時間を15分から10分に、入退場は4分で！
これには、曲のくり返しを省略し、入退場ゲートを増やし、並足を早足行進として対応しました。

②本番(6月21日)に続き、翌日も演奏して欲しい！
サンパウロ市周辺100km以内のチームに参加を
お願いし700名近い参加者の配置図を作りました。
でも、配置図は4回も変更しました。

③皇太子殿下の面前の打ち手は背中を見せず、全員殿下の方向を向いて打って欲しい！

さすがに、それは演奏上できないと拒否しました。

④ブラデスコ銀行以外のロゴマーク、社名は使用禁止。これらの要求を呑まないと、殿下ご臨席での演奏もはずさざるを得ない！

太鼓協会では別銀行から、ハッピー1,200人分約束済みだったので、「おどし」に近い要求でした。

別銀行をキャンセルし、役員がブラデスコ銀行とかけ合いハッピーの資金調達は確約をもらったものの、デザインがなかなか決まらず、本番2週間前の発注、でき上がりは本番1時間前という「離れ業」を演じました。

◇5回のリハーサル！

最大の懸念であった入退場の練習が思うに任せずゲートができ上がったのが本番前日で本会場でのリハは1回のみで当日を迎えました。5回のリハの内で最高の出席率が前日で70%だったこ

とも不安の種でした。そのような中でマスコミは2007年11月の第1回目のリハーサルを「本番には程遠い千人太鼓」と掲載しました。そこで太鼓協会主催のリハーサルではマスコミの目を気にせず時間をかけ、修正すべきは何回でも手直ししようとの判断からマスコミの取材を断りました。

◇こんなことも…

・リーダーは太鼓を打たずにチームの前で振りのみと決めたが、「太鼓を打って参加したい！」そんなリーダー達60人を説得するのに苦労しました。

・頭の大小に関係なく使えるハチマキは何か？パンツにヒントを得て幅広ゴムに決定。2日前の買い出しで十分間に合いました。

・本番3ヶ月前、太鼓協会矢野会長から「太鼓があって、打ちたいという希望者は全員参加させたいのですが…」「えへ、今になって…」このひと言で1,200人になっても打てる配置を考え、その結果、1,187名になりました。

※「一条乱れぬ ド迫力の千人太鼓」の成功の裏には、ここに書けない裏話もあるものの、今となっては「すばらしい、2度とない経験」でした。



(ブラジルでの指導の様子)

各地で太鼓講習会を開催！

<第47回日本太鼓支部講習会(静岡)>

1月16・17日(土日)、静岡県支部主催による支部講習会が富岳太鼓パレスで行われ、4・5級基本講座に地元静岡県をはじめ、78名が参加しました。

開会式では堀江支部長と(社福)富岳会の山内理事長より歓迎と励ましの挨拶があり2日間の講習会が始まりました。なお、今回は障害を持った方も受講し、4級3名、5級7名が立派な成績で合格しました。

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

4級検定 17名受験 17名合格

5級検定 61名受験 61名合格

<第37回日本太鼓全国講習会(鹿児島)>

2月27・28日(土日)、鹿児島県支部主管の全国講習会を、霧島国際音楽ホールみやまコンサールにて実施いたしました。地元鹿児島県をはじめ、全国12都県から178名が受講しました。

開会式では、財団を代表して中西常務理事、全九州太鼓連合を代表して長谷川会長、鹿児島県支部より竹ノ下支部長からそれぞれ励ましと歓迎の挨拶があり、講習会がスタートしました。

また、第4期公認指導員更新研修会を行い、全国から32名の公認指導員が参加し、更新手続きを完了しました。

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定	8名受験	4名合格(認定なし)
2級検定	17名受験	16名合格(6名認定)
3級検定	23名受験	23名合格
4級検定	40名受験	40名合格
5級検定	63名受験	63名合格



(5級基本講座の様子)

台湾日本太鼓公演「橘太鼓『響座』」からの感想文をご紹介します。

台湾公演を終えて… 派遣メンバー 酒井 優

私たちは、(財)日本太鼓連盟からの派遣により、2009年11月31日～12月8日までの9日間、台湾の宜蘭、台北、台中の3会場での公演と幼稚園、日本人学校での演奏・ワークショップを行いました。

真冬の日本を飛び立ち3時間余り、台湾に降り立った私たちを迎えてくれたのは、穏やかな気候と台湾太鼓協会の皆さんの熱烈な歓迎でした。空港からは用意されていたバスに乗り込み、台湾の独特な雰囲気を感じながら一路ホテルへ。

初日は、公演で演奏する演目を確認しながらの練習。今回の公演の為に色々と準備はしてきたものの、より良い演奏を台湾の皆さんに聞いてもらおうと、長谷川太鼓連盟副会長、太鼓連盟の方々との綿密な打ち合わせを行いました。また今回は、台湾の太鼓団体との共演とのことで、はじめて目にする台湾チームの演奏に興味津々でした。

台湾2日目、いよいよ最初の公演。日本を代表して来ている以上、無様な演奏はできないというプレッシャーで、体はガチガチ。脇の下に変な汗をかきながらいよいよ開演。会場は満員御礼。日本でもここまで観客の入る和太鼓コンサートはなかなかありません。俄然力が入りました。

台湾チームの演奏は、「本当にここは台湾なのか？」と思うくらい技術的に高いものがありました。聞けば長谷川副会長が忙しい仕事の合間をぬって、ボランティアで台湾に幾度も足を運び指導されてきたとの事。さすがです。

自分たちの演奏はと言いますと、日本とは違う会場の雰囲気に戸惑いつつも、私たちなりの精一杯の太鼓を叩かせていただきました。

3日目には、台北市内の博如幼稚園と台中日本人学校を訪問して演奏・ワークショップを行いました。博如幼稚園では、子ども達が行儀よく私たちの演奏を聴いてくれました。本当に可愛かったです。それから2時間かけて移動して台中日本人学校へ。日本と変わらない、またはそれ以上に立派な建物でした。到着後すぐに体育館へ太鼓を搬入。セッティングをし、演奏・ワークショップを和やかな雰囲気の中行いました。多少のハプニングはあったものの、「もしかしてここは日本？」と錯覚してしまいそうなく

らいでした。体育館の壁際には太鼓がたくさん並んでいて、ここまで日本の和太鼓が普及している事に嬉しさを感じ、台湾との関わりを深く感じました。

台中市の中山堂で行われた公演では、1,700名収容の会場が見事に埋め尽くされていました。チケットは早くにソールドアウトしたそうで、こんなところで演奏できる私たちは幸せ者だと心に思い、一生懸命叩かせていただきました。台湾の太鼓チームも3会場の中では最多の13チーム総勢100名以上の出演者。最後に演奏した台湾合同チームによる演奏は圧巻でした。

最終日、中壠藝術館の会場になると、全出演者の動きもスムーズになり、最終日にふさわしい見事なステージでした。

私にとっては、台湾は2度目でしたが、今回の台湾公演は、これからの太鼓打ちとしてやっていく上で、太鼓への姿勢や心構えなど初心の大切さを改めて感じ、多く学べた海外公演だったのではないかと思います。

長谷川副会長の的を射的確なご指導とアドバイス。大澤事務局長のしっかりとした段取り。陰で献身的に私たちをサポートして下さった印出さん、村上さん。全ての会場でいつもにこやかに演奏を見て下さった塩見理事長。王妙涓台湾太鼓協会理事長には、大変熱烈な歓迎を受け、素晴らしいステージを準備していただいたことに感謝申し上げます。また、台湾の太鼓チームとの交流ができたことも非常に嬉しかったです。

今回、私たちにこのような素晴らしい経験を与えて下さったすべての方々に、心からお礼申し上げます。「有難う御座いました。」



(中壠藝術館でのフィナーレ)

カンボジア日本太鼓公演

～地雷除去記念式典で演奏！～

2月3日(水)から7日(日)にかけて、カンボジアに「富岳太鼓」(静岡)を派遣しました。これは、国際ロータリークラブがカンボジアにおいて協力していた地域の地雷除去作業が終了したため、その記念式典を実施し、太鼓演奏の協力要請を受け実現したものです。今回は、シェムリアップで2回の公演と孤児院でミニ公演を行いました。



(学校での演奏)

カンボジア公演御礼

「富岳太鼓」代表 山内 強嗣

今回は滞在期間3日という短い公演でしたが、充実した公演活動を行うことができました。すべての公演が乾季で日中の気温35度を超える屋外の炎天下の公演でしたが、額に汗しながら最後まで公演を務めあげることができました。これはきっと日本の太鼓に大変興味をもち、最後まで真剣に聞いてくれたカンボジアの子どもたちのキラキラと輝く瞳があったからでしょう。

内戦、大量虐殺と暗い過去を持ち、今は戦争の歓迎されない置き土産、地雷の被害と貧困に苦しむカンボジアの人々が、私たちの太鼓を聞きながら見せてくれた笑顔は一生忘れることはできません。これを機会に和太鼓を通してさらなる国際貢献、そして世界平和のために、可能な限り太鼓を打ち続ける意志を固める旅となりました。

地雷除去完了式典の企画に和太鼓を選んで下さった東京ロータリー並びに国際ロータリー第2580地区(東京、沖縄)の関係者の皆様、そして何かにつけきめ細かい御配慮を戴いた、塩見理事長を始めとする(財)日本太鼓連盟の皆様にご心より御礼申し上げます。最後に本公演に理解と協力をいただいたメンバーの家族、また職場の皆様にご感謝いたします。

派遣メンバー 岩田 結

私にとって太鼓をやっていく上で一つの目標としていた海外公演。その初めての海外公演がカンボジア。色々な期待や不安、緊張を胸に出発しました。カンボジアで公演をして一番感じたことは、言葉は通じなくても心が通い合えるということでした。音

楽に国境はないと耳にしたことはありますが、その言葉に偽りが無いことを実際に自分で実感することができました。

初日の学校では、楽しみにしていてくれた、子どもたちが準備をする私たちに少しずつ近づいて来て、5分もたたないうちに太鼓に触れていました。いざ公演が始まると、さっきまで騒がしかった子どもたちが集中して耳を傾けているのです。終わってからはたくさんの拍手を頂きとても感動しました。子どもたちと一緒に打つプログラムでは私たちの真似をして楽しんで打ってくれました。初日ということでも緊張もしましたが、子どもたちから逆にパワーをもらい3日間乗り切れたように思います。

学校、孤児院、式典と全く違った環境での演奏でしたが、ただ打つだけでは伝わらないことを一番感じました。打ち手として、聞いている人に伝えるための表現力、技術などをこれからもっと見直していきたいと思いました。手や腕の動き、全身の動き、表情なども1つ1つ追求して、日本の伝統文化の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えていきたいです。

カンボジア滞在中は、正直驚くことばかりでした。自分がどれだけ恵まれた環境の中で生きているか、もっと色々な人たちや物に感謝しなければならないと振り返ることができました。今回のロータリークラブの方々の活動を通じて地雷除去についての内容や、そのことによるカンボジアの生活の変化など大変多くのことを学ぶことができました。貴重な体験をさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。関係者の皆様ありがとうございました。この海外公演での経験を無駄にしないよう、日々の稽古に励みたいと思います。

派遣メンバー 山内 和紀(高校2年)

カンボジア公演に参加させていただき、私は日本とは全く違う多くの文化や習慣を見て体験し学ぶことができました。

その中で私はカンボジアの子ども達について考えることがありました。1日目と3日目に公演に行った学校と孤児院では、子ども達は生き生きとして明るく優しさを持っているという印象を受けました。これは今の日本の子ども、大人にも失われつつあるものだと思います。そこには人間の温かさが感じられました。

しかし大変ショックを受けたこともありました。それはカンボジアのおかれている状況を利用し、観光客を相手にお金をねだる子どもがいたことです。確かにカンボジアには貧しい生活をしている人が少なくありません。ですが自分は貧しいとか、可哀そうだと言わんばかりの悲しい顔を作り、お金や

物をねだる光景を見てとても心が痛む思いがしました。それをやらせているのが大人(親)たちであることも辛い現実です。子ども達の未来がどうなってしまうのか不安にもなりました。そして私に何かできることはないのかも考えさせられました。

このような体験や感想を持つことができたのも、私が和太鼓をやっていたからだと思います。もし和太鼓をしていなければ、私は国外に目を向けることもなかったでしょうし、この様な現実を知ることありませんでした。和太鼓をやっている本当に良かったと感じています。これからも和太鼓を通じ様々なことを学び体験して行きたいです。

カンボジアで公演させていただきありがとうございました。



(うれしそうに太鼓をたたく子供)

2010年度に向けて各種会議を開催

～理事会・評議員会・運営委員会・技術委員会～

<理事会&評議員会>

第24回理事会並びに第22回評議員会が3月12日に開催され、次の事項が審議、承認された。

1. 「2010年度事業計画及び収支予算について」

<運営委員会・技術委員会>

第40回運営委員会・第35回技術委員会が1月14日に開催され、次の事項が審議、承認された。

1. 「2009年度事業の実施と今後の予定について」
 - ① 2009年度事業の実施状況について
 - ② 第12回日本太鼓ジュニアコンクールについて
2. 「日本太鼓資格認定制度について」
 - ① 公認指導員の昇級と推薦について
 - ・ 2級公認指導員候補者である北川進氏(石川)、岡田博勝氏(大阪)、中野千恵子氏(静岡)、野方嘉孝氏(佐賀)、3級公認指導員昇級候補者である講習内検定に参加した伊澤明子氏(静岡)は、全員一致で承認された。
 - ・ 第4期公認指導員更新研修会の参加状況を報告。不参加者の対応を後に協議することとした。
3. 「2010年度事業の実施について」

昨年と同様に事業を計画した。なお、助成金交付事業は、35事業計画に対し、30事業が承認され残り5事業を追加募集することとなった。

*助成金事業に関しては、第41回運営委員会を

4月19日に書面にて行い、追加で5事業が承認され、全35事業が決定した。

<技術委員会>

第36回技術委員会が3月21日に大宮ソニックシティで行われたジュニアコンクールに併せて開催され、次の事項を検討した。

1. 「日本太鼓ジュニアコンクールについて」

第12回日本太鼓ジュニアコンクールの出場団体に対し、講評を送ることとなっているため、大会に参加した技術委員により各チームの演奏内容等に関して確認し、結果のとりまとめを行った。
2. 「日本太鼓資格認定制度について」

各支部より3級公認指導員として推薦のあった候補者の認定の可否について古屋技術委員長より、指導状況についての報告があり検討した。審議の内容と結果は、次のとおり。

菅原成晃氏(長野)は三重及び富山での講習会、三角泰子氏(福岡)、野依修視氏(大分)、田中俊亮氏(長崎)、中津洋二郎氏・上杉春明氏・蓑輪誠治氏・玉井秀雄氏・川越俊行氏(宮崎)の8名は鹿児島での講習会に参加し、いずれも認定するに相応しいと判断された旨の説明があり、全員一致で承認された。

公認指導員の推薦者に対するお知らせ

2009年度において各支部より公認指導員の推薦のあった皆さんは、当財団の実施する全国講習会または支部講習会へ講習内検定として参加し、公認指導員としての資格について確認を受けていただくこととなります。

昨年の代議員会において、各支部の代表者より「公認指導員として相応しい」との確認を得ておりますが、講習内検定への参加が前提となっております。

つきましては、できる限り早い時期に講習会に参加されますよう日程を調整願います。

事務局だより

2010年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

運営委員会において、次の35事業が承認されました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

<支部講習会> 4事業

5月22・23日(土日)日本太鼓支部講習会(福岡県宗像市)
7月10・11日(土日)台湾太鼓講習会(台湾桃園県)

12月4・5日(土日)日本太鼓支部講習会(長野県安曇野市)
2011年2月12・13日(土日)日本太鼓支部講習会(東京都港区)

<教職員太鼓研修会> 11事業

6月13日(日)岐阜県教職員研修会(郡上市)
6月20日(日)宮崎県教職員研修会(高鍋町)
7月24・25日(土日)京都府教職員研修会(城陽市)
7月31日(土)群馬県教職員研修会(甘楽町)
8月5日(木)山梨県教職員太鼓研修会(南アルプス市)
8月19・20日(木金)島根県教職員研修会(出雲市)

8月21日(土)宮城県教職員研修会(利府町)
8月22日(日)長崎県教職員研修会(波佐見町)
9月23日(木祝)長野県教職員研修会(岡谷市)
11月14日(日)岩手県教職員研修会(奥州市)
日時未定 北海道道央教職員研修会(札幌市)

<その他> 20事業

4月3日(土)東京の太鼓(東京都荒川区)
4月29日(木祝)ふじた傳三郎太鼓15周年記念コンサート(岡山県岡山市)
5月23日(日)佐賀県太鼓連合同会コンサート(佐賀県武雄市)
7月17・18日(土日)北陸三県太鼓連盟サマースクール(福井県福井市)
7月24・25日(土日)全九州和太鼓講習会inゆふいん(大分県由布市)
7月24日～8月2日新潟万代太鼓スリランカ公演
9月4日(土)秋田県子供太鼓フェスティバル(秋田県横手市)
9月5日(日)東北太鼓フェスティバル(秋田県横手市)
9月19日(日)四日市諏訪太鼓50周年記念コンサート(三重県四日市市)
9月26日(日)日本太鼓ジュニアコンクール福井県大会(福井県越前市)

10月3日(日)Taiko Yarou Day(北海道安平町)
10月3日(日)神々の國太鼓祭「天鼓」(三重県度会町)
10月9日(土)山形県太鼓フェスティバル(山形県尾花沢市)
11月3日(水祝)兵庫県太鼓まつり(兵庫県たつの市)
11月7日(日)台湾日本太鼓フェスティバル(台湾台北市)
11月7日(日)いわて太鼓フェスティバル(岩手県葛巻町)
11月21日(日)みやざき太鼓フェスティバル(宮崎県宮崎市)
12月5日(日)福岡県太鼓フェスティバル(福岡県福岡市)
2011年1月30日(日)全九州日本太鼓ジュニアコンクール(福岡県宗像市)
2月12日(日)北陸子供太鼓大会(石川県白山市)

講習会のお知らせ

第48回日本太鼓支部講習会(福岡県宗像市)

期 日：2010年5月22・23日(土日)

主 催：(財)日本太鼓連盟福岡県支部

会 場：宗像グローバルアリーナ
(福岡県宗像市吉留46-1)

総合指導 古屋 邦夫氏(技術委員会委員長)

5級基本講座 田中 俊己氏(1級公認指導員)

申込先：

(財)日本太鼓連盟福岡県支部

事務局長 三角 泰子

〒811-2221

福岡県糟屋郡須恵町大字旅石742

Tel：092-935-1181 Fax：092-935-1181

携帯：090-9659-9089

*公認指導員による講習内検定への参加も受付けております。

参加を希望される方は、財団または福岡県支部の事務局までお問合せ下さい。

第38回日本太鼓全国講習会(石川県川北町)

期 日：2010年6月26・27日(土日)

主 管：(社)石川県太鼓連盟
(財)日本太鼓連盟石川県支部

会 場：川北町役場文化センター
(石川県能美郡川北町字壺ツ屋174)

専門講座

大太鼓講座(単式単打法) 山内 強嗣氏

八ツ杉権現太鼓講座(単式複打法) 高橋 秀行氏

源流太鼓講座(複式複打法) 長谷川 義氏

基本講座

総合指導 古屋 邦夫氏(技術委員会委員長)

3級基本講座 安江 信寿氏(1級公認指導員)

4級基本講座 若山 雷門氏(1級公認指導員)

5級基本講座 松枝 明美氏(1級公認指導員)

申込先：

(財)日本太鼓連盟太鼓講習会実行委員会

担当 浅野正規

〒924-0051 石川県白山市福留町587-1

Tel：076-277-1717 Fax：076-277-2228

携帯：090-2123-4546

訃 報

日本太鼓の普及、発展のためにご尽力いただきました進藤喜一郎氏(前山形県支部長・太鼓道場「風の会」代表・享年61歳)並びに片庭栄次氏(栃木県支部長・創作男体雷太鼓代表・享年70歳)がご逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。